

電機・情報ユニオン

2021年 10年間の運動をいっそう発展させ 闘いの砦の役割を發揮しよう



米田徳治中央執行委員長

森英一 中央書記長
あけましておめでとうございます。
どのような気持ちで新年を迎えるましたか。
米田徳治 中央執行委員長
電機・情報ユニオンを2011年に結成して10年目を迎えました。

結成した年のパナソニックの4万人リストラから始まつた電機大企業の身勝手な人員削減を中心とするリストラ策は現在も止まらず、この間、56万人を超える労働者が退職に追いこまれています。

このリストラ策を電機連合（前電機労連）及びその傘下労組の労使合意で行われるという事から、職場では頼りになる労働組合が存在しない中で、2011年9月に全国単一、産業別労働組合の電機・情報ユニオンの結成は、適宜にかなつたものだつたといえます。この10年間の電機大企業

組合運動が確実に経験を積み、労働者の要求実現に本格的な大企業の労働組合活動と運動が「闘いの砦の役割」を發揮できることを改めて考

えた新年となりました。そして、これまで経験したことがないコロナ禍のもとで、電機・情報ユニオンの存在を多くの電機情報関連産業で働く労働者に知らせていくたいとの思いを強くしました。



2020年9月18日(日) 第10回定期大会

森 書記長
コロナ便乗リストラにはリストランケート配布を

米田 委員長
昨年12月に労働相談を対応してみて、現場の実態はリス

トランケート配布を実行する企業が増えてきました。この10年間の電機大企業

の労働組合は、労働条件の改善や労働環境の整備に取り組んでおり、労働組合の運営も活性化しています。

森 書記長
昨年は、1年に日立ヘルスケアシステムズのリストランケート配布を実行する企業が増えてきました。この10年間の電機大企業

の労働組合は、労働条件の改善や労働環境の整備に取り組んでおり、労働組合の運営も活性化しています。

第112号の紹介

- 1面 米田委員長の年頭インタビュー
- 2面 米田委員長の年頭インタビュー
- 3面 東京支部第46回組合員の集い
伊草さん不当解雇2周年行動
- 4面 交流のひろば、告知板、あとがき

日立リストラ反対闘争で運動が前進

期決算から見て、営業利益を赤字計上している企業については、「コロナ禍を利用して人員削減を進めることは間違いない」と警鐘を鳴らし、これまで電機・情報ユニオンが取り組んできた「封書付きリストランケット」の門前配布(WEB掲載)を機敏に取り組まなければと思っています。